北澤晃先生を偲んで

とやま臨床美術の会を生み育ててくださった北澤晃先生が、今年1月21日にご逝去されました。

『つくり、つくりかえ、つくる』
これは、北澤先生が臨床美術士としての活動を始める以前から、教育実践学の研究者として、長年大切にされてきた言葉です。先生の臨床美術実践研究と教育実践学研究がこの『つくり、つくりかえ、つくる』をキーワードとして統合され、臨床美術アートプログラム(北澤晃)が誕生しました。
私たちが迷ったときに立ち帰るのは、自己の希薄化にともなう「生きにくさ」を癒す関係論的人間観を意識したケアとしての臨床美術のあり方です。

先生は、2023年の“つくり、つくりかえ、つくる”アートプログラム講演会の最後に次のように述べられていました。
「これからもどれくらいプログラムを作っていけるかわかりませんが、臨床美術士の皆さんに“つくり、つくりかえ、つくる”を実践していただけるように努めていきたいと思っています。そして大袈裟に言えば、アートの力で身の回りの社会を変革していきたい。皆さんにも実践していただくことで、社会の『何か（個人主義的なもの）』をつくりかえていくことが、些かでもできると考えています。それこそ、既成の枠組みをつくりかえていくアートの役割ではないでしょうか。この講演を通してその思いを新たにしています」。

先生は旅立つ直前までこの思いを熱く抱いていらっしゃいました。

今回、北澤先生が制作し残された臨床美術プログラム（北澤晃）「幸福を呼ぶ福来郎をつくる」「おもいで ・夢工場の夜」「不老長寿・しろえびを描く」「ならんだ！ならんだ！チューリップ祭り」「雪降る街」「くらげ水族館」のデモ作品、参考作品と共に、先生が残された言葉を集め展示いたします。
そして未完のプログラム「夜桜」の参考作品と、唯一プログラムを実施した「ものがたり茶屋」で参加されたお二人の作品をお借りし展示いたします。

ご高覧ください。

私たちは、先生の思いを携えて、歩みを進めていきます。

とやま臨床美術の会
会長　渡邉恭子